かまくらの不思議を歩こう ⑥

佐助稲荷神社の不思議

大貫昭彦

＊お参りの作法

前回紹介した扇ガ谷の要山(かなめやま)の力は、歴史や地形など沢山の要素が重なった所から湧き出てきたものと思われます。これとは対照的に佐助稲荷神社は、重なる要素は少ないのですが、相当なパワーを感じさせます。アースパワーフィーラ大根弘行師に同行した人たちの多くが他の場所以上に驚きの声を上げました。

お参りの作法は、いつも大根師の指示に従って行ないます。まず、最初の鳥居を潜る時、左手前で一礼します。潜ってまた一礼、次に千本鳥居の林立する参道は狭いのですが、中央は神様の通る道として端を歩きます。参道を登り切ると、もう一度一礼、それから本殿に進み、中央を避けて、右か左に寄って二礼二拍一礼します。お参りの際には、必ず住所、氏名を述べるようにとも言われています。

＊俗界と霊界の差

同行者が参拝している間、大根師はパンパンと手を打ちながら、パワーの出ている場所を探り、わずかな音の違いを捉えます。佐助稲荷神社の場合は、本殿左の岩がスポットのようです。苔むした、いかにもそれらしい岩です。大根師が、拾った木の枝で×印を作ると、メンバーが代わる代わる立ち、合掌したり、手をかざしたりします。見よう見まねで立ってみて、手をかざすと温かくなったような気もしますが、未だ半信半疑です。

佐助稲荷神社の参道

「少し右へ移動した方がいい！」後ろから声がかかりました。パワースポットは数センチで外れてしまうらしく俗界と霊界の境は微妙です。しかし位置を変えても感の鈍い者には結果は同じでした。

＊プラスパワーとマイナスパワー

一方、メンバーには敏感な人が何人もいます。「熱を感じる！」とか、「すごい力に押される！」とか、ひそひそ言い交わしています。パワーの現れ方は、時により人により異なるようです。押される、引っ張られる、熱を感じる、匂いがする、風を感じる、迷いが吹っ切れる、心身の停滞が解消される。その逆もあり、気分が悪くなるなどパワーがいつもプラスに働くとは限らないようです。

お稲荷さんの幕

大根師は、スポットから離れた所でも気の変化を捉えることがあります。参道を歩きながらここから空気が変わった。涼しくなったとか、さわやかになったとか言われます。しかし、霊気の匂いなどはいつもいいとは限りません。「ここの匂いはよくないね」路地を歩きながら突然言われたことがあります。鈍感な者にも匂いの変化は分かりました。「近くに粗末にされている神様がいるようだね」

＊佐助稲荷神社の地霊

佐助稲荷神社の岩は、みんなに健康なパワーをくれたようです。鈍感なわが身も山の冷気を吸って爽快でした。この力は、神社が出来る前から涌き出ていたもののようです。

佐助山は水源の山。佐助、由比ガ浜の神体山でもありました。東へは佐助川となって佐助、由比ガ浜の農耕を支えました。「稲生り」→「稲荷」の神です。西は大谷戸川。下流で稲瀬川と合流し、坂ノ下の海を豊かにしました。大谷戸の道が「おぐりの道」といわれたのは、このためです。坂ノ下の漁師は、大谷戸を通って佐助稲荷神社に初穂を送り届けたのです。祭神は宇迦御魂(うかのみたま)（倉稲魂）。食を司る神で、今は工業、経済に及ぶ殖産興業の神です。

ところで、隣の葛原ヶ岡には、農業、知恵、財力の神を祭る銭洗弁財天宇賀福神社があります。名は違っても同根の水の神です。こうして見てくると、稲荷神社のパワーは、佐助と葛原、二つの山に込められた一途な祈りから湧き出てくるものと解釈できそうです。

命の大切さ知り、伝える

第3回鎌倉市中学生防災サミット

「中学生と地域住民がすすめる防災まちづくり」をテーマに、公募の鎌倉市在住、在学中学生が防災について話し合う「鎌倉市中学生防災サミット」が8月11日、鎌倉の鶴岡八幡宮鶴岡文庫で開催された＝写真。

東日本大震災以来、3月11日に鎌倉市役所駐車場で行われている「心をひとつに」の催しの一環で今年3回目。

鎌倉市総合防災課から市の防災に対する取り組みの説明があったあと、宮城県七ヶ浜向洋中学校3年生の生徒3人が、ふる里を復興し、未来へつなげるための取り組みを紹介。生徒たちは、菖蒲田浜災害公営住宅の入居者との交流や、海岸清掃などを紹介した。震災で母と祖母を亡くした小野寺優羽さん(14)は震災時の状況を語り、「後悔しないように伝えたいことがあればその人に伝えてください」と呼びかけた。

また、元大船渡中学校校長の金賢治教諭が「自助」「共助」について話し、命を大切にすることが、自分のためにも人のためにもなることを伝えた。

市内の中学生16人は向洋中学の生徒と共に4つのグループに分かれて災害についての話し合いをし、それを発表した。

命の大切さ、家族がいることが幸せであること実感したこと、災害時に自分の命と人の命の両方を守ることの難しさを感じたこと、災害を想定どおりと決めつけないで行動しなければならないことなどの発表があった。

同サミット責任者で医師の酒井太郎さんは「防災教育を学校の枠を超え、市民が中心となって行っている取り組みで、中学生たちの力で鎌倉を防災都市にしていきたい」と期待を寄せた。

夏の風物詩

八幡宮のぼんぼり祭

鶴岡八幡宮のぼんぼり祭が8月6日から9日の4日間行われた＝写真は松原省吾さん撮影。

鎌倉の文化に親しんでもらおうと鎌倉ペンクラブや鎌倉在住の名士の協力で1938年（昭和13）からはじめられ、今年79回目。鎌倉近在の著名人から寄せられた約4百点の書画がぼんぼりに仕立てられて境内に掲揚され、夕刻になると灯りがともされた。

日本画家・鈴木竹柏さん、歌舞伎役者・中村獅童さんらの書画のほか、オバマ大統領、将棋の藤井聡太四段などを描いたものなどぼんぼりを眺めながらそぞろ歩きを楽しむ人で連日にぎわった。

福島の被災者を鎌倉に招待

未来・連福プロジェクト

東日本大震災の被災地・福島の人たちを鎌倉に招待する「建長寺で会いましょう！」の催しが、7月29日から3泊4日で開かれ、福島県の葛尾村、楢葉町などの仮設住宅から100人と関東近隣から6人の合計106人が参加した＝写真。

子どもたちの幸福を願って活動している「未来・連福プロジェクト」（斉藤美代子代表）の主催で今年7回目。交通費や滞在費などの諸経費を募金やチャリティーコンサートで集め、観光や食事づくり、生活の世話などは、鎌倉周辺の中・高生、大学生、主婦、医師やカメラマン、演奏家ら2百余人がボランティアで協力。

福島から2台のバスで鎌倉に来た参加者たちは、円覚寺やカトリック雪の下教会、新江ノ島水族館や鎌倉大仏などを観光し、夜は宿泊先の建長寺で交流会を楽しんだ。

最終日の交流会では、斉藤代表から「応援をつづけるので一生懸命生きてほしい」と励ましを受け、子どもたちは「水族館や大仏に行き、大仏が大きくてびっくりした」と感想を述べ、川内村の参加者は「りっぱな寺で、母親らを亡くなった被災者の法要をしてもらった上、日本文化や鎌倉の人たちのあたたかな思いに触れられて生きる意欲がわいてきた」と感謝を伝えた。

お笑い芸人が切り絵で動物や大仏などを作ったり、本場さながらのシャンソンや癒しのフルートが演奏されたりして会場を盛り上げた。

鎌倉といえば・・・
鳩サブレー
豊島屋
http://www.hato.co.jp

古書 藝林荘（げいりんそう）
古い本、お譲りください
芸能・美術・文学・宗教・和本・摺りもの等
10：30−18：00　月曜定休
鎌倉市雪ノ下1-5-38（小町通り）
☎0467・22・6533
出張買取無料

鉢の木
お弁当のお届けや出張料理もございます。
新館 北鎌倉店 カフェ　23-3723（代表）
www.hachinoki.co.jp　www.konrei.net

Yanase かまくらカスター
雪ノ下本店　逗子店
鎌倉駅前本館（かの鎌倉）
ルミネウィング（大船）店

お香 香炉 香道具 匂い袋 高級線香 念珠 他
鎌倉に蘇える伝統の香り
香司 鬼頭天薫堂 鎌倉
鎌倉市雪の下1-7-5 小町通り八幡宮寄り
TEL. 0467-22-1081（代）
http://www.tenkundo.co.jp/

八幡宮前・蒲焼専門店
うなぎ 茅木家
☎（22）1460